

Member's Forum

会員投稿の頁



U-35委員会企画 3rd action
「建築と共有」活動報告

公開審査&講評会

2016年2月20日(土) 13:30~

会場: KIITOデザイン・クリエイティブセンター神戸

第1回U-35主催 学生アイデアコンペティション



審査員	猪熊 純	(成瀬・猪熊建築設計事務所 首都大学東京助教)
	前田昌弘	(京都大学助教)
コーディネーター	三谷帯介	(U-35委員会)

課題

『 共 のレシピ 』

課題主旨文

スマートフォンは、発売以来、私たちの生活を劇的に変化させ続けている。SNSやシェアリングサービスなどネットワーク上での個人同士の自由な繋がりは、若者を中心に日常的コミュニケーションの重要な位置を占め始めており、私たちは「いつ・どこにいても」必要な情報や繋がりにアクセスできる自由を手に入れた。

一方、私たちの社会が古来より培ってきたコミュニティ母体(家族、集落、団地、公園、広場、学校、自治体、商店街、お祭りなど)の縮小化・希薄化・孤立化に対し、シェアハウスやFAB Cafe、エリアマネジメントなどは、既成の仕組みを掛け合わせることで「場所に根差したコミュニティ」を再定義し、新しい共同体としての価値を生み出していると言える。

場の拘束から離れ、自由の身となった個の集合体が、敢えて場を共有することで生まれる豊かな繋がりの場(=『共(きょう)』)とはどういったものだろうか。素材の持ち味を掛け合わせて料理するときの「×」(掛け算)のメソッドで、次世代の社会問題に鋭くメスを入れる、独創的で美味しい『共のレシピ』を期待したい。

最優秀賞 「Bio-tope」
(1作品) 山口 昇 (京都工芸繊維大学大学院)

優秀賞 「ショッピングモール×イエ」
(2作品) 近藤弘起 (東京理科大学)
平田 柳 (東京理科大学)
「流れ出すタイムライン~繋がりたいFaceBook世代の為の集合住宅~」
竹内和巳 (京都大学大学院)
林 和茂 (京都大学大学院)

特別賞 「学生寮で過ごし、人と繋がるシェアドミトリー」
(3作品) 志萱侑太 (日本大学大学院)
山川大喜 (日本大学大学院)
千葉雄介 (日本大学)

「一軒家×家事」
仲尾 梓 (東京理科大学大学院)

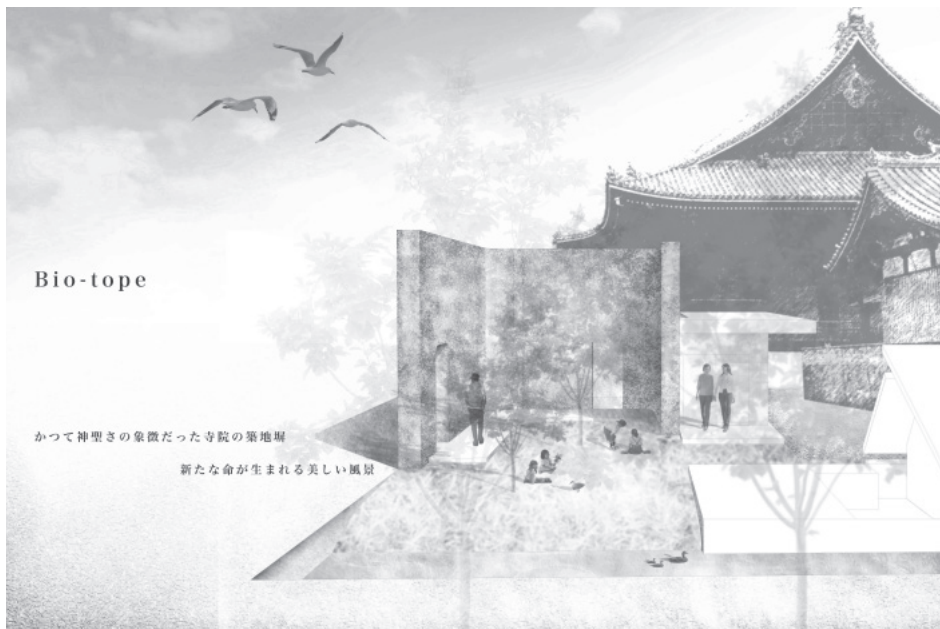
「小さな住宅×大きな住宅」
兼松陽介 (名城大学大学院)
上野友子 (名古屋工業大学大学院)

Member's Forum

会員投稿の頁

最優秀賞 山口 昇 (京都工芸繊維大学大学院)

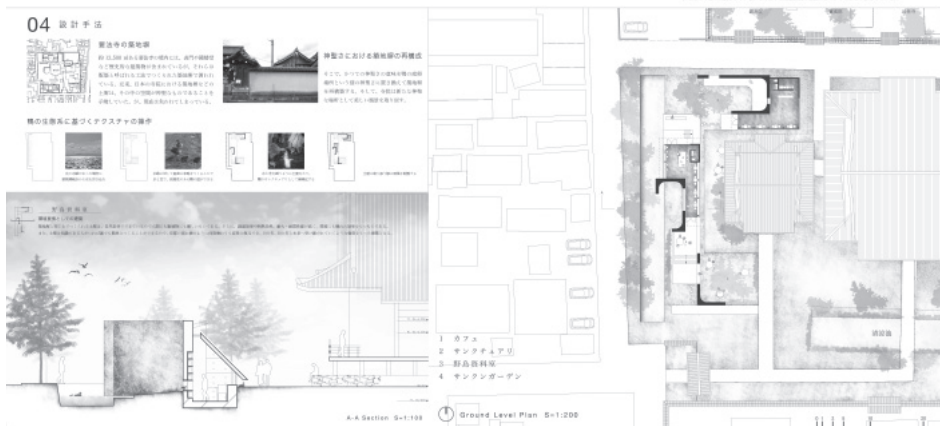
「Bio-tope」



01 寺院景観の形成

02 Master Plan | 京都府京都市左京区舞臺

03 SITE | 東法寺境内



選評

・「共」のレシピというお題に対して、住まい方や建物内でのコミュニティを取り上げた提案が多かった中で、そこで展開されている活動を緻密にリサーチした上で広い地域に対して薄いレイヤーで繋がっていかうとする提案は非常に共感できた。プレゼンテーションのレベルも高かった。(猪熊)

・鴨を介したコミュニティに着目し、市街地のオープンスペースのあり方を問うという興味深い提案である。既存の活動に加え、周辺のまちの文脈も踏まえて、提案を契機としてどのような新たな展開やつながりが生まれるか、ということがもっと掘り下げられていれば新たに建築物を挿入したことの説得力がより増したのではないかと。(前田)

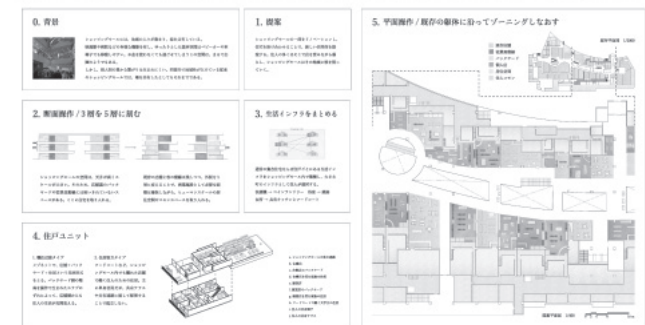
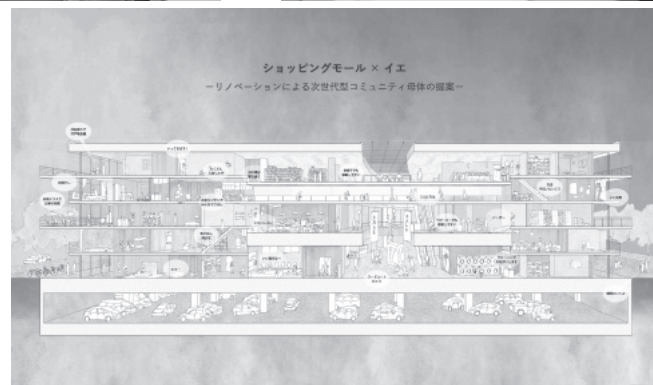


Member's Forum

会員投稿の頁

優秀賞 近藤弘起 (東京理科大学)
平田 柳 (東京理科大学)

「ショッピングモール×イエ」



選評

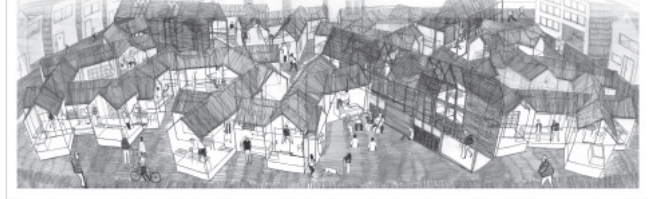
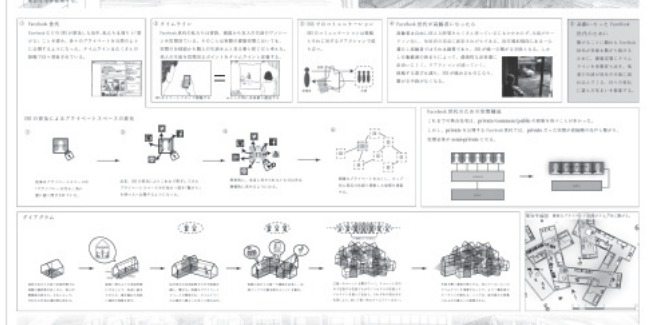
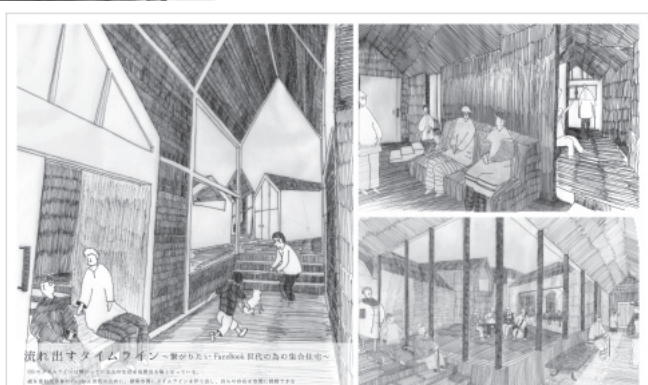
・増え続けているショッピングモールという建築のプロトタイプに対して、疑似都市のような空間構成やプログラムの面白さを理解しつつ、「次世代」というコンペの視点に対して、いずれ廃れていくのではないかと問題提起をしている点を評価した。一見、本当に出来るのだろうかという驚きはあったが、前向きな提案ができていた。(猪熊)

・商店街のような空間が持つ濃密な地域性を敬遠する世代のライフスタイルをキャッチし、良くも悪くも現代の市場ニーズをよく捉えているショッピングモールというビルディングタイプに居住機能を挿入する、という提案が興味深い。そこに住むのが本当にいいのか、よりパブリックな機能や都市インフラを挿入するのがいいのか、立地特性や周辺地域の状況も考慮した提案があれば、より良いものになるのではないか。(前田)

優秀賞 竹内和巳 (京都大学大学院)
林 和茂 (京都大学大学院)

「流れ出すタイムライン

～繋がりたいFaceBook世代の為の集合住宅～」



選評

・SNSを通じて変化しているコミュニケーションのあり方を読み解き「次世代」というテーマに落とし込んだ作品。中心がないネットワーク状のコミュニティを前提とする課題設定は評価でき、その視点を正確に建築に落とし込むプロセスや手法も丁寧になされていた。守られるべきプライバシーの空間について細やかに想像しながら設計に落とし込んでいくことを期待したい。高齢者の住まい方についても、人としての尊厳が大切にされるべきと考えている。(猪熊)

・プライベートを直接的にさらけ出すことがSNS世代の関係性の捉え方として妥当なのか疑問はあるが、課題に真正面から取り組んだ点は評価できる。SNSの良さは自分と他者、お互いの存在が認識されている感覚から生まれる安心感や満足感にもある。歴史的な都市では、例えば京都の町家街区やイタリアの中庭街区など、そのような「みる-みられる」の関係が巧みに組み込まれることで居住の安定が保たれてきた。(前田)